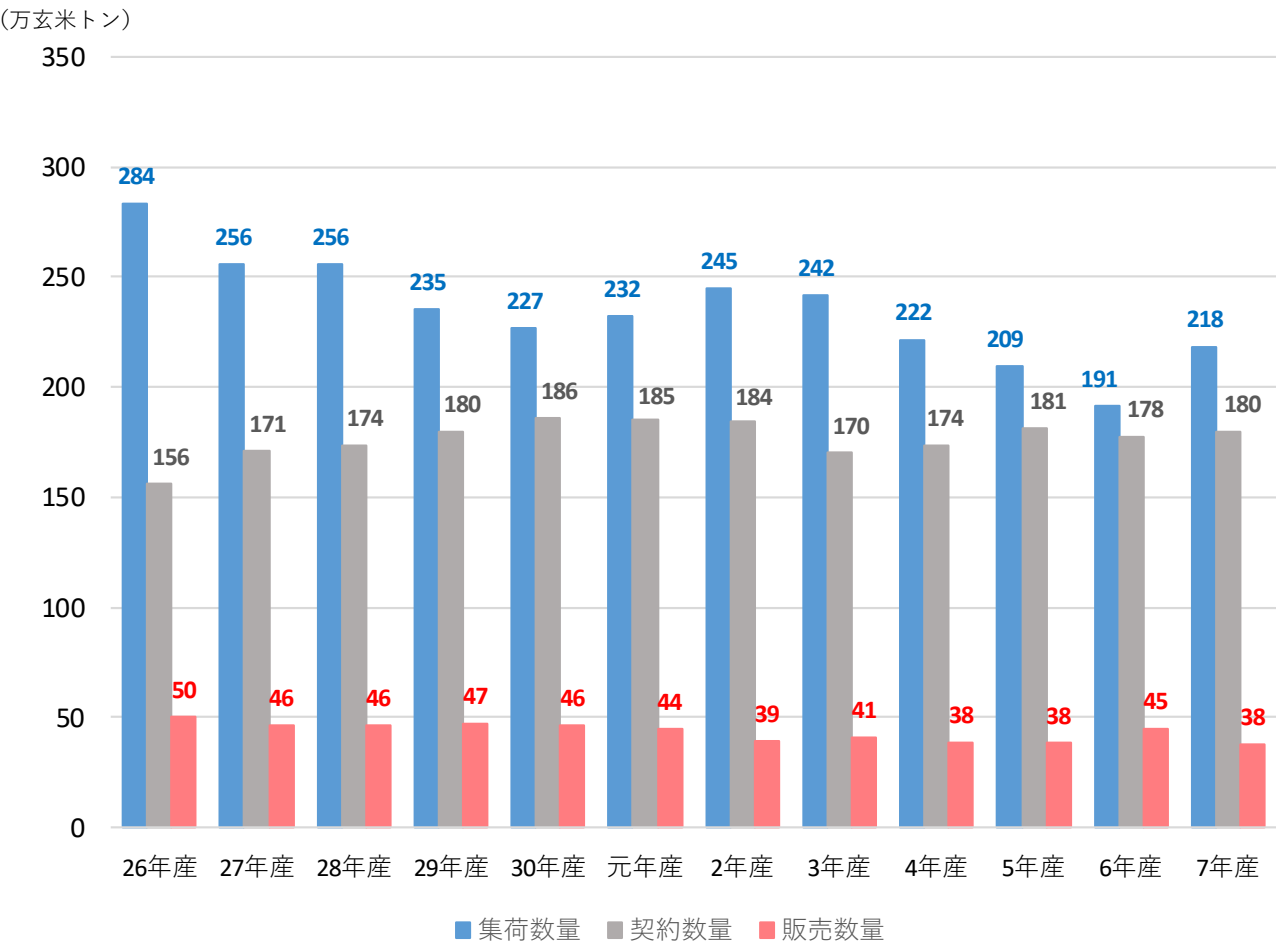


集荷業者の米の集荷・契約・販売状況の推移

○ 令和7年産米の令和7年11月末現在の集荷数量は218.4万玄米トン（対前年同月＋27.3万玄米トン）、契約数量は179.9万玄米トン（対前年同月＋2.2万玄米トン）、販売数量は37.5万玄米トン（対前年同月▲7.5万玄米トン）。

○ 集荷・契約・販売状況（出回りから生産年の11月末までの累計）



(単位: 万玄米トン)

年産	年月	集荷数量	契約数量	販売数量
26年産	26年11月末	283.6	155.8	49.8
27年産	27年11月末	255.5	170.8	46.1
28年産	28年11月末	255.8	173.6	46.4
29年産	29年11月末	235.4	179.9	47.2
30年産	30年11月末	226.5	185.8	46.4
元年産	元年11月末	232.2	184.8	44.3
2年産	2年11月末	244.6	184.1	38.8
3年産	3年11月末	241.8	169.9	40.6
4年産	4年11月末	221.6	173.6	38.4
5年産	5年11月末	209.3	181.1	38.2
6年産	6年11月末	191.1	177.7	45.0
7年産	7年11月末	218.4	179.9	37.5
	前年差 (前年比)	+27.3 (114%)	+2.2 (101%)	▲ 7.5 (83%)

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注：1 本調査は、平成25年産米の平成26年2月末現在より調査開始。
2 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。
3 報告対象米穀は、水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。
4 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。
5 契約数量は、報告対象業者が自ら販売するために契約を締結（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）した数量である。
6 販売数量は、集荷数量のうち契約のあと実際に卸売業者等に引き取られた数量である。